

HOPE^{plus}

[市立芦屋病院だより]



産婦人科のご紹介

部長 かみうら しょうじ 上浦 祥司

市立芦屋病院産婦人科は、常勤医師3名、非常勤医師3名(男性2名、女性4名)で外来と手術を行っており、婦人科疾患(子宮や卵巣の腫瘍、過多月経や月経痛、更年期障害、不正出血やおりものの異常、子宮脱や尿漏れなどの女性泌尿器疾患)に幅広く対応しております。

婦人科内視鏡学会より技術認定を受けた医師3名が在籍し、子宮筋腫、卵巣嚢腫、子宮内膜症といった良性疾患に対する鏡視下手術を得意としております。年間350例以上の手術(令和6年度実績:腹腔鏡247例、子宮鏡60例、腔式その他46例)を実施し、芦屋市内のみならず兵庫県各地より治療にお越しいただいております。

腹腔鏡手術や子宮鏡手術などの鏡視下手術の利点の1つは創が小さい故の回復の早さにありますが、当院ではさらに術後早期回復プログラム(ERAS)に早くから取り組んでまいりました。

術前から多職種でリスク評価やリハビリ、手術前後の絶飲食期間の短縮や早期離床などに取り組むことで、合併症を増やさずに入院期間を短縮することができています。また、腫瘍が大きかったり癒着があったりすると鏡視下手術は難しいと思われがちですが、当科ではそういった患者さんにこそ鏡視下手術の利点を活かせると考え、手術を行っています。個々の病状に合わせて、薬物療法を含めた治療選択について提案させていただきますので、ご自身の意思決定に則って安心して治療に臨んでいただければ幸いです。



左から:宮田 明未 次長/上浦 祥司 部長/安田 美樹 副医長



今年からは婦人科腫瘍専門医・指導医である上浦が着任し、婦人科がん症例に対しても対応が可能となりました。AYA世代(15歳~39歳)のがんは多くを女性のがん(乳癌、子宮癌など)が占めており、就学就労、結婚、妊娠分娩など人生の大きな転換期に重なります。お一人で悩むことなく、ご家族はもちろん、病院内の多くの職種の協力、さらに、社会行政からの補助も受けながら治療に臨んでいかれることを応援いたします。

また、がんの治療が開始されるのに合わせて緩和ケアを並行して進めていくことも大切です。当院では多くの緩和ケア内科医、緩和ケア認定看護師が在籍し、さらに薬剤師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、ソーシャルワーカー、公認心理師を含めたサポートケアチームで、患者さんの体調と心のケアなど細やかに対処させていただきます。

産婦人科は女性の全生涯に寄り添う診療科として皆さんのニーズに応えてまいりますので、お気軽に受診いただければ幸いです。

後期研修医のご紹介

こしば しゅうへい
整形外科 小柴 周平

先生から一言!

4月から市立芦屋病院に赴任しました、小柴周平と申します。整形外科を専攻しております。未熟ではありますが、地域の皆さんによりよい医療を提供できるよう日々精進いたします。どうぞよろしくお願いたします。



後期研修医のご紹介

血液内科、腫瘍内科

血液疾患

たかはし ともや
高橋 知也

先生から一言!

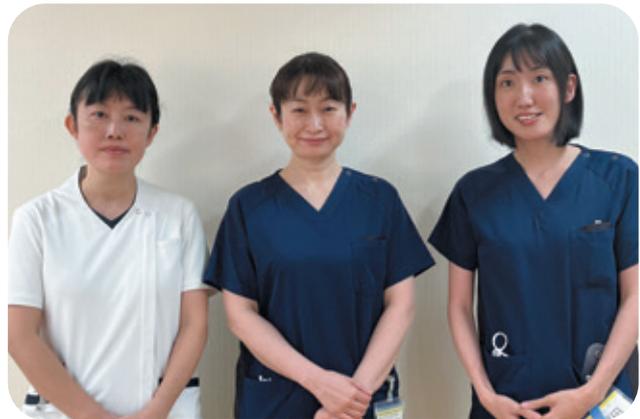
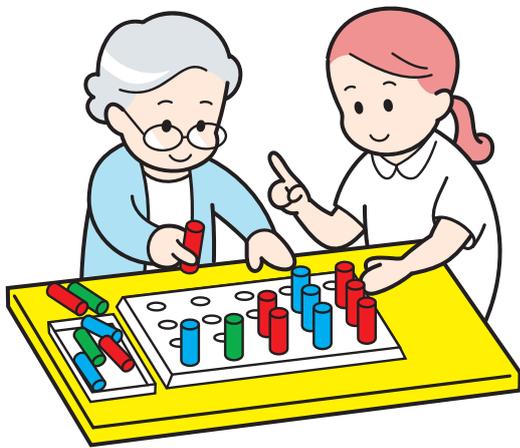
今年の4月より赴任いたしました。皆さんに安心して医療を受けていただけるように努めてまいります。どうぞよろしくお願いたします。

作業療法士(OT)のご紹介

リハビリテーション科 主査 にしこり しゅく 錦古里 淑

作業療法士(Occupational Therapist、略称 OT)は、病気やけが、加齢などによって日常生活や社会活動に支障をきたしている方々をサポートする医療職です。作業療法士は、『作業』を通じて心と体の回復や維持、生活の質(QOL)向上を目指し、一人ひとりの目標や個性に合わせたリハビリテーションを行います。ここでいう『作業』とは、食事や入浴、着替えなどの日常生活動作、また趣味や仕事、地域活動など、人が日々行うさまざまな活動を指します。

作業療法士は、医師や看護師、理学療法士や言語聴覚士などと連携しながら、患者さんの身体機能や認知機能、精神面を多角的に評価し、必要な支援を提案します。例えば、転倒予防のためのバランス練習や、手先の動きを改善するための道具の使い方指導、認知症の方への記憶カトレーニングなども作業療法の一環です。また、自宅や地域で安全に過ごせるよう、家屋改修のアドバイスや福祉用具の選び方もサポートします。



左から：樽岡 愛・錦古里 淑・梶田 明希

市立芦屋病院では、作業療法士が急性期から回復期、維持期まで幅広い患者さんを対象にリハビリテーションを実施しています。医師の指示のもと、日常生活動作の自立や社会復帰に向けた練習を提供し、地域での生活へとつなげていきます。脳血管疾患や呼吸器疾患の患者さんへのアプローチに加え、整形疾患では主に上肢にトラブルのある患者さんに対して専門的なリハビリテーションを行います。

市立芦屋病院の作業療法士は、患者さんやご家族の声に耳を傾け、一人ひとりの『できること』を大切にしながら、その人らしい生活の実現をサポートしています。市民の皆さんの健康と豊かな生活を守るために、今後も地域と協力しながら活動を続けていきます。



後期研修医のご紹介

糖尿病・内分泌内科

糖尿病・内分泌

たけうち あやも

竹内 綾桃

先生から一言！

本年4月より市立芦屋病院に赴任することになりました。患者さんに寄り添い、より良い医療を提供できるように努めてまいります。よろしくお願い申し上げます。

後期研修医のご紹介

糖尿病・内分泌内科

糖尿病、内分泌・代謝

きたかぜ しょういち

北風 匠一

先生から一言！

兵庫医科大学病院よりまいりました。糖尿病分野を中心に地域の皆さんの健康にお役に立てるよう精一杯努めさせていただきます。

理学療法士(PT)のご紹介

リハビリテーション科 主査 田村 宏 たむら ひろし

当院のリハビリテーション科には、理学療法士が7名います。

一般的にリハビリテーションとは、「病院内で行う機能回復訓練の場」とイメージされていると思います。その中で理学療法とは、病気、けが、高齢などによって能力が低下した患者さんに対し、機能の維持・改善を目的に運動、温熱療法、電気療法や起きる、座る、歩くなどの基本動作を用いて行う治療とされています。

例えば、股関節の骨折により入院を余儀なくされた患者さんに対して、“趣味の散歩が再びできること”を目標に挙げたとします。当院の理学療法は「低下した機能を単に回復するだけではなく、今使える機能を最大限に引き出し、環境にどう適応するか考えていく場」であることを

を信念としております。つまり、基本動作の回復、運動機能の向上に加えて自宅での活動範囲、手すりの位置、段差の有無など個々の生活スタイルを詳細に把握し、必要な筋力、バランスを考慮した実用的な動作の獲得に努めることを目指しております。



上段左から：川村 直生・川浦 元気・岡本 涼太郎
中段左から：大森 直輝・米山 真穂
下段：田村 宏

これにより患者さん自身も明確な目標の下、積極的に取り組み、動作獲得へ効率的に機能することができます。

退院が視野に入ってくると、退院前訪問指導や理学療法士が症例検討会へ参加することにより、他職種と協力して退院後のバックアップや病院から在宅診療への流れづくりも行っております。

芦屋市民の皆さんの背景に見合った機能回復、社会参加の一助となることを目指し入院、外来問わず理学療法を展開していきたいと思っております。理学療法のことでお悩みや困りごとがありましたら、何でもお気軽にご相談ください。

セカンドオピニオン外来

「セカンドオピニオン」とは、患者さんが納得のいく治療法を選択することができるよう、現在診療を受けている担当医とは別に、ほかの医療機関の医師に治療の進行状況、次の段階の治療選択などについて「第2の意見」を求めることです。例えば、担当医から説明された診断や治療方針について、ほかの医師の見解や何か治療法があるなら試したいと思う場合もあるでしょう。セカンドオピニオンを受けることで、担当医の意見を別の角度からも検討することができ、もし同じ診断や治療方針が説明された場合でも病気に対する理解が深まります。また、別の治療法が提案された場合には選択の幅が広がることで、より納得して治療に臨むことができます。

当院では、ほかの医療機関に入院、または通院されている患者さんを対象に、当院の専門医が患者さんの主治医からいただいた情報を基に、診断内容や治療法などに関して助言を行うことを目的に「セカンドオピニオン外来」を実施しています。セカンドオピニオンの対象者は患者ご本人を原則としますが、ご本人の来院が難しい場合には、ご本人の同意の上で、ご家族も対象となります。

セカンドオピニオン外来を受診するには、当院の地域連携室へお問い合わせください。

セカンドオピニオン外来に関するお問い合わせ

市立芦屋病院 地域連携室
Tel.0797-31-2156 (代表)

当院ホームページ
「セカンドオピニオン
外来のご案内」



言語聴覚士(ST)のご紹介

リハビリテーション科 主査 いまい たかひさ 今井 教仁

病気やけが、または発達の課題などにより、大切なコミュニケーションが難しくなることがあります。そうした困りごとに対し、専門的な支援を行うのが「言語聴覚士」です。言語聴覚士は、1997年に国家資格として創設された、リハビリテーション分野では比較的新しい専門職です。支援の対象は、小児から高齢者まで多岐にわたり、幅広い年齢層の方々と関わっています。特に高齢者に対しては、ことばの支援に加え、摂食・嚥下障害へのリハビリテーションにも力を入れており、安全に「食べる」機能の回復を目指した支援を行っています。

また、市立芦屋病院では、県内でも数少ない「学習支援外来」を設け、小児科や看護師と連携しながら、学習に困難を抱える子どもたちへの支援にも取り組んでいます。



左：原田 恵理 右：今井 教仁

読み書きにおけるつまずきの背景を評価し、それぞれの特性に応じた学習方法を提案することで、子どもたちの可能性を広げるお手伝いをしています。このように、言語聴覚士は医師や看護師、その他専門職と連携しながら、患者さん一人ひとりが「自分らしい生活」を送ることができるよう支援しています。今後も「ことば」や「食べる」ことに関する支援を通じて、地域の皆さんの健康と生活の一助となれるよう努めてまいります。



2025年度 芦屋病院公開講座

●時間：午後2時～3時30分 ●定員：100人 ●受講料：無料

| 日時 | 場所 | 内容 | 講師 |
|----------|------------------|--------|----------------|
| 7月12日(土) | 芦屋市民センター 401室 | 心臓の豆知識 | 循環器内科 北川 泰生 医師 |
| 8月 2日(土) | | 薬剤について | 薬剤科 見田 秋与志 薬剤師 |

お問い合わせ先／芦屋市立公民館 〒659-0068芦屋市業平町8-24(Tel.0797-35-0700・Fax.0797-31-4998)

市立芦屋病院 ご案内

交通案内

- JR芦屋駅から
- タクシー 約5分
- バス 約15分 (2番のりば)
- 徒歩 約30分
- 阪急芦屋川駅から
- タクシー 約5分
- バス 約20分 (2番のりば) 約15分 (4番のりば ※但し15時台まで)
- 徒歩 約35分

※病院ネットワークバスもご利用ください **無料**

市立芦屋病院の理念

〈病院理念〉
あい(愛)・しあわせ(幸福)・やさしさ(優しさ)

〈基本理念〉
芦屋市の中核病院として 地域社会に貢献します
患者の意思を尊重し 最善の医療と癒しを提供します

日本医療機能評価機構 認定施設(3rd G: Ver. 2.0 一般病院2)

市立芦屋病院

〒659-8502 芦屋市朝日ヶ丘町39-1
TEL:0797-31-2156 FAX:0797-22-8822
H P: <https://www.ashiya-hosp.com/>